

2024 年 7 月 3 日 (水)

朝霞市障害者自立支援協議会専門部会（こども部会）講演会

発達に課題のあるこどもの支援について～地域で考える～

大石幸二（立教大学現代心理学部）

以下のアジェンダにより、100 分以内で話題提供をいたします。10 分くらい質疑を承ることができると思います。

1. はじめに
2. 睡眠覚醒リズムの重要性
3. すべての子が学び方を学ぶために
4. 細やかに発達の様子に気づくには
5. 特別な保育・教育ニーズの理解
6. おまけ（＊時間が残った場合に提示いたします）



はじめに

朝霞市で子どもが安心して育ち、学ぶことができる
ために——点を線に、線から面にする連携と協働——

- ① 児童の特性理解と、それに相応しい個への支援については一層の研修が必要である
- ② 個への支援については、どのようなポイントを押さえて何をすべきか、わからずに困っている保育者や養育者がいる
- ③ 児童発達支援事業所などの療育・発達支援の専門機関が保育所・幼稚園と連携を進めたいが、個に特化した申し入れは拒否されてしまう場合がある
- ④ 保育所・幼稚園の管理職の意識の問題もある一方、現場が疲弊している現実がある

- ⑤ 現場の疲労感・負担感が高くなっている背景には、地域での子育てそのものが難しくなっている現実がある
- ⑥ 集団の保育・教育に手を焼くと、その結果として、特性の強い、多くの労力を必要とする児童への拒否感が高まり、保護者の積極的な関与や取り組みへの期待が大きくなる
- ⑦ 地域での子育てについての支援を重層化して、皆がアクセスしやすい制度設計をしていかないと、社会的インクルージョンと逆行してしまう
- ⑧ また、子育て支援の要となる保育所・幼稚園にて、支えられることの良さを保育者自身が実感できる機会の設定が急務である

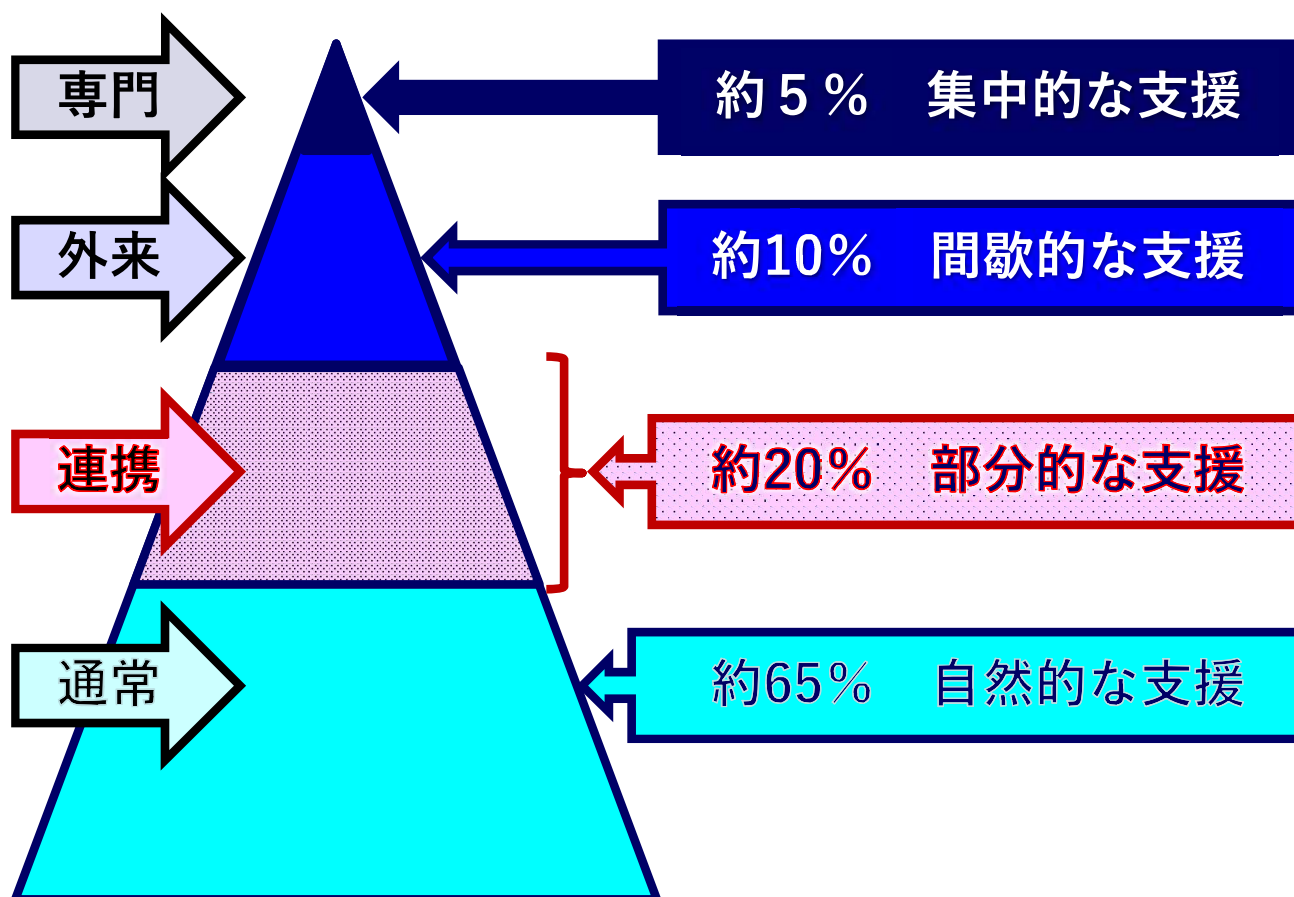
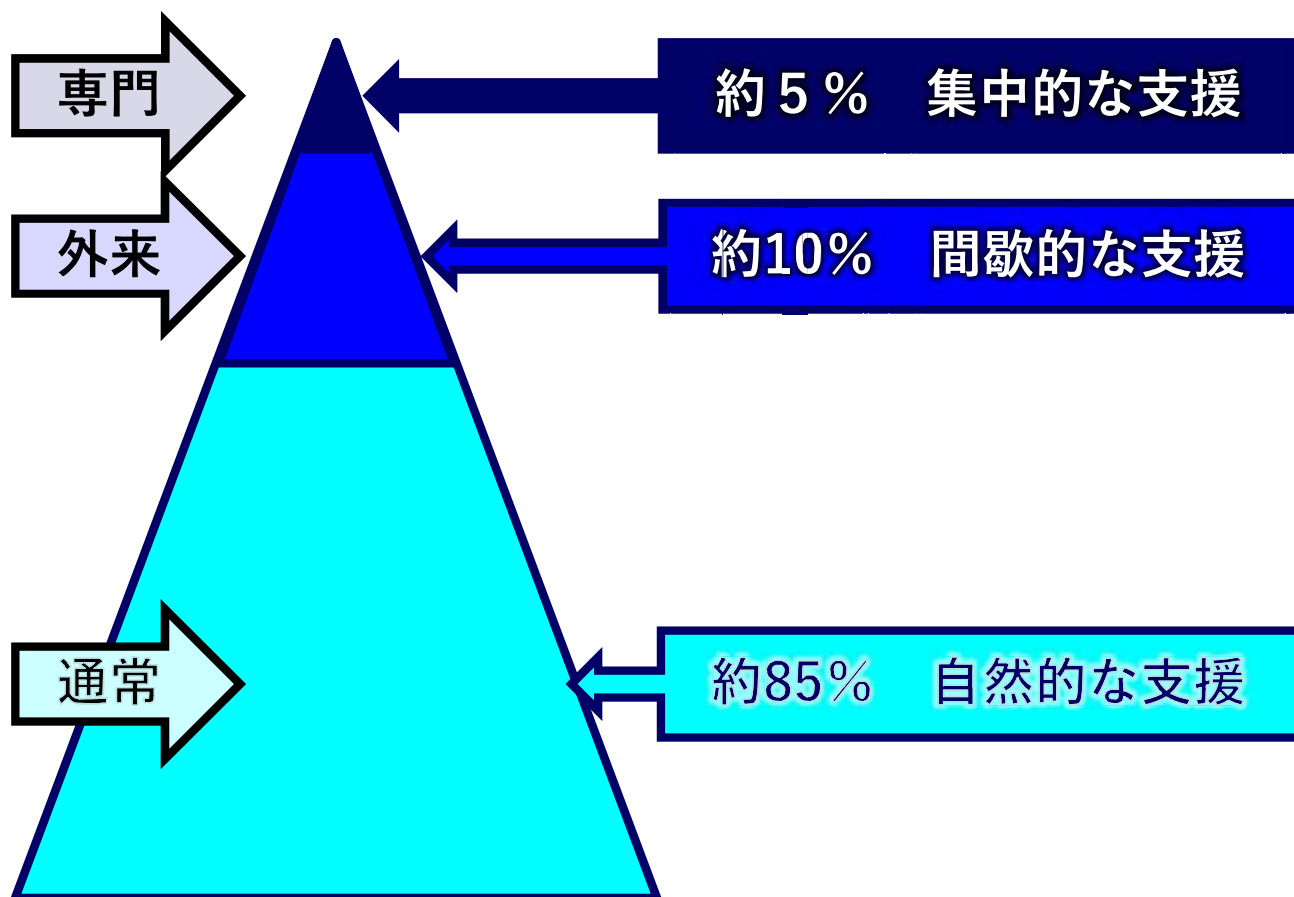
朝霞市で子どもが安心して育ち、学ぶことができるために――点を線に、線から面にする連携と協働――

○実践者 **個人の資質・力量に関する課題**

○ **組織の在り方や体制に関する課題**

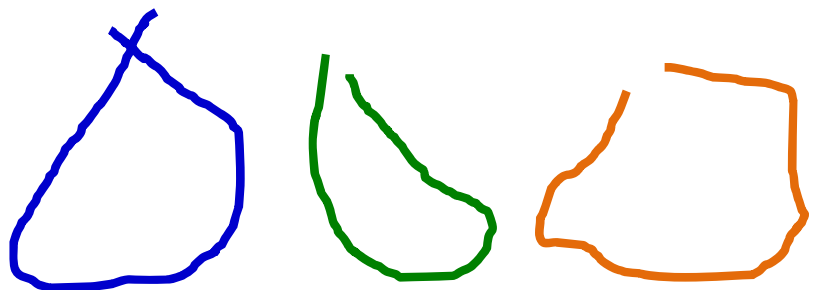
○組織間、機関同士の **連携と協働に関する課題**

○地域の在り方を変革するための **政策的な課題**



睡眠覚醒リズムの重要性

睡眠覚醒リズムの重要性について



- ・ 形態のイメージ化が難しい
- ・ 運動のコントロールが難しい
- ・ 丹念な作業の持続が難しい

睡眠覚醒リズムの不調が、行動・情緒面の問題に、一役買ってしまった。 部分的な支援児の増加。

学校に馴染んでいない子どもたち



30日以上の欠席



依存性・嗜癖



昼夜逆転の持続



慢性的体調不良



過敏・情緒不安



過緊張・心配

馴染んでいない子どもの原因論

- 身体症状（疲れる・痛みがある）…50%
- 学業問題（授業がわからない）……35%
- 交友問題（友だちがいない）…………30%
- 孤立症状（学校の居心地が悪い）…25%

家庭養育要因
20%説明可能

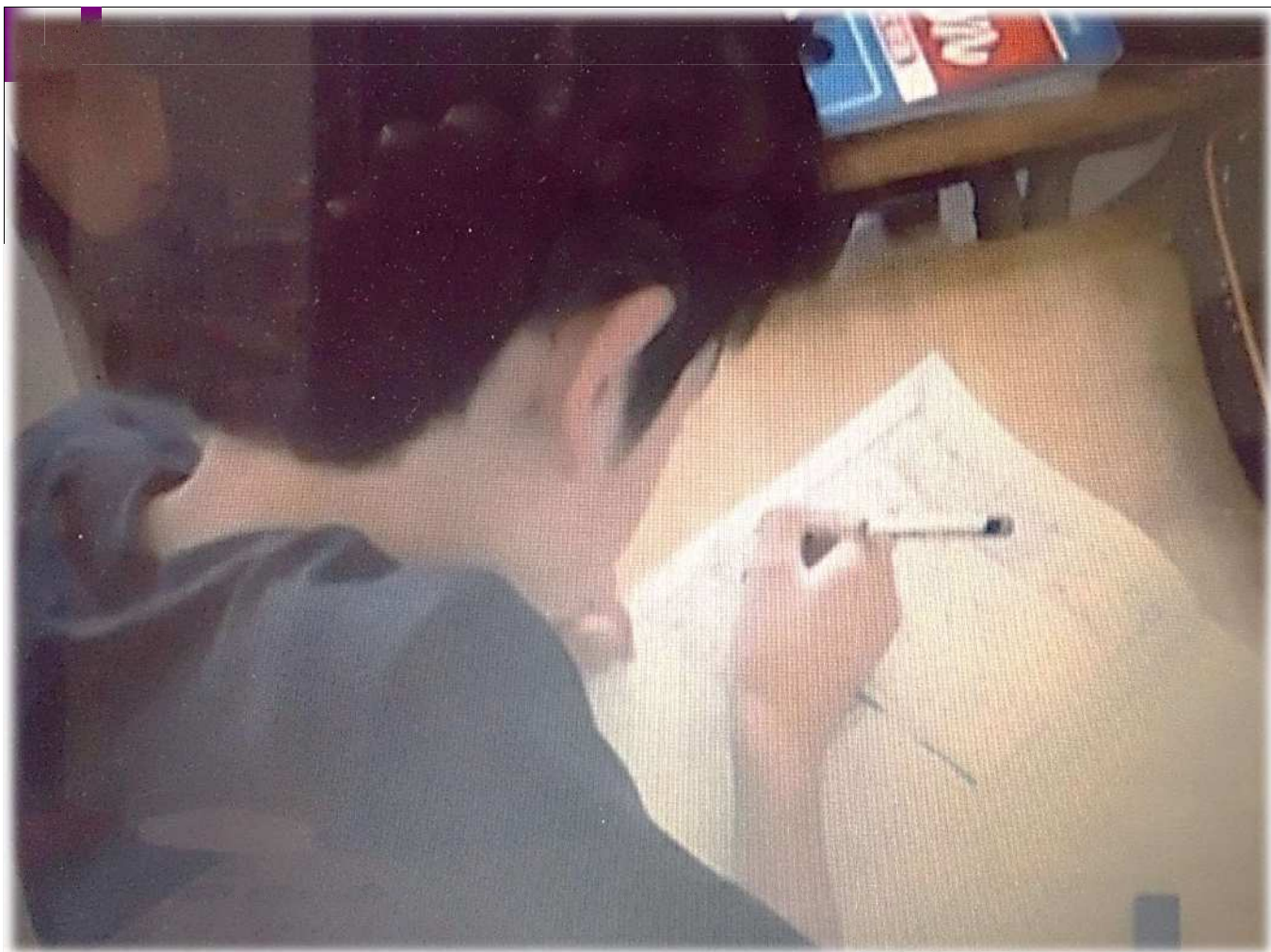
園校環境要因
60%説明可能

本人特性要因
8%説明可能



すべての子が学び方を学ぶために





やぬといーしんやぬうた
うちとーいーしんやぬうた
りしーいーしんやぬうた
はーいーしんやぬうた

自己調整学習：実行機能(EF)

Hot EF

非認知的能力

共感性のはたらき

② 一度手放す

反応切替

③ ふりかえる

作業記憶

Cool EF

深い学び

冷静に問題をつかむ

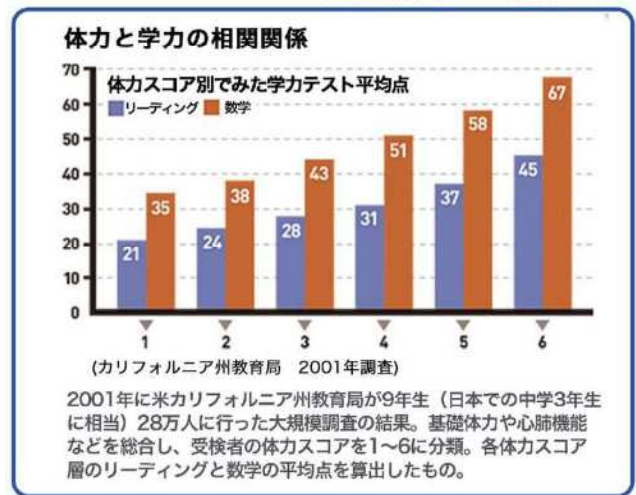
① 反応抑制

待つ・並ぶ

自己調節として重要な実行機能



BRIEFによる実行機能の評価



五感をフル稼働させる授業の推進



見たままに写す

聴いてすぐ実行

順を踏んで作業

言葉による伝達

中等教育段階では意識しないと実現が困難である



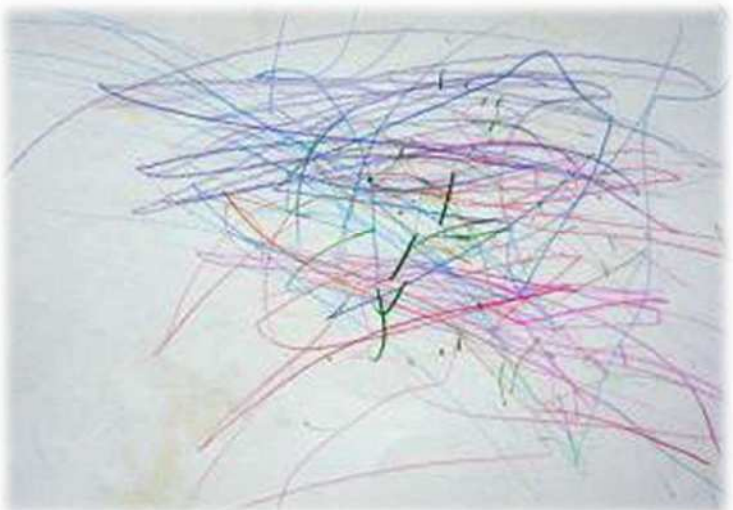
細やかに発達の様子に気づくには

反復描線の段階



1 歳代の運動
表現力の発達

尖ったなぐり描き：反射性

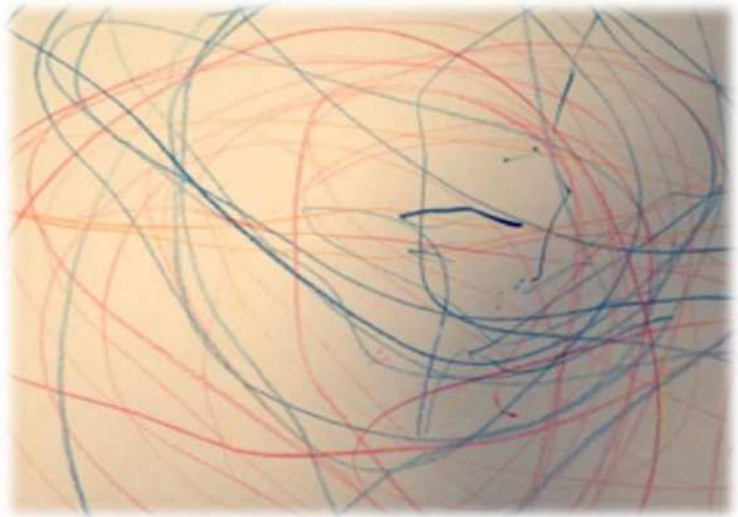


曲線出現の段階



2 歳代の運動
表現力の発達

時折マルが閉じる：随意性



頭足人画の段階

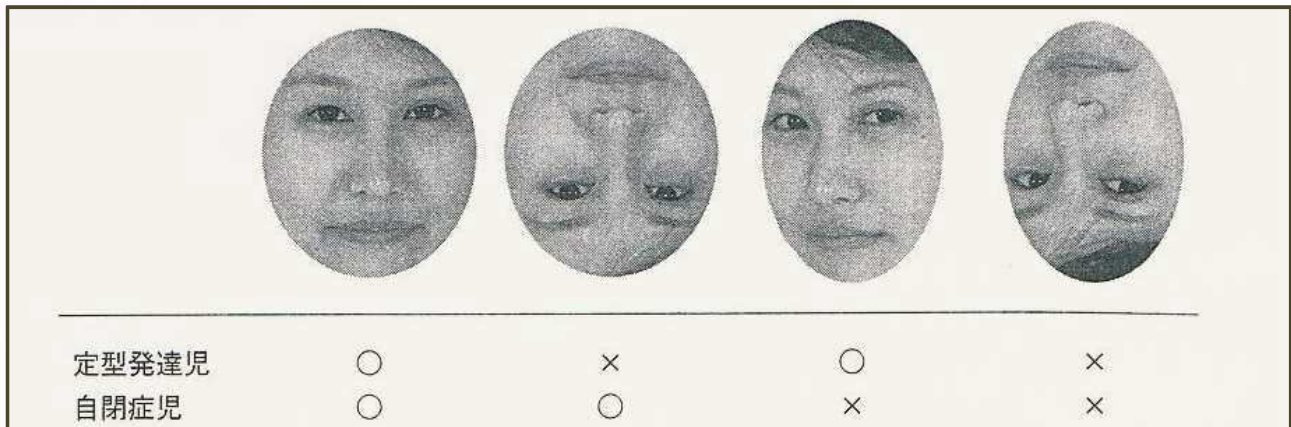


3 歳代の運動
表現力の発達

心の中の像を再現：計画性



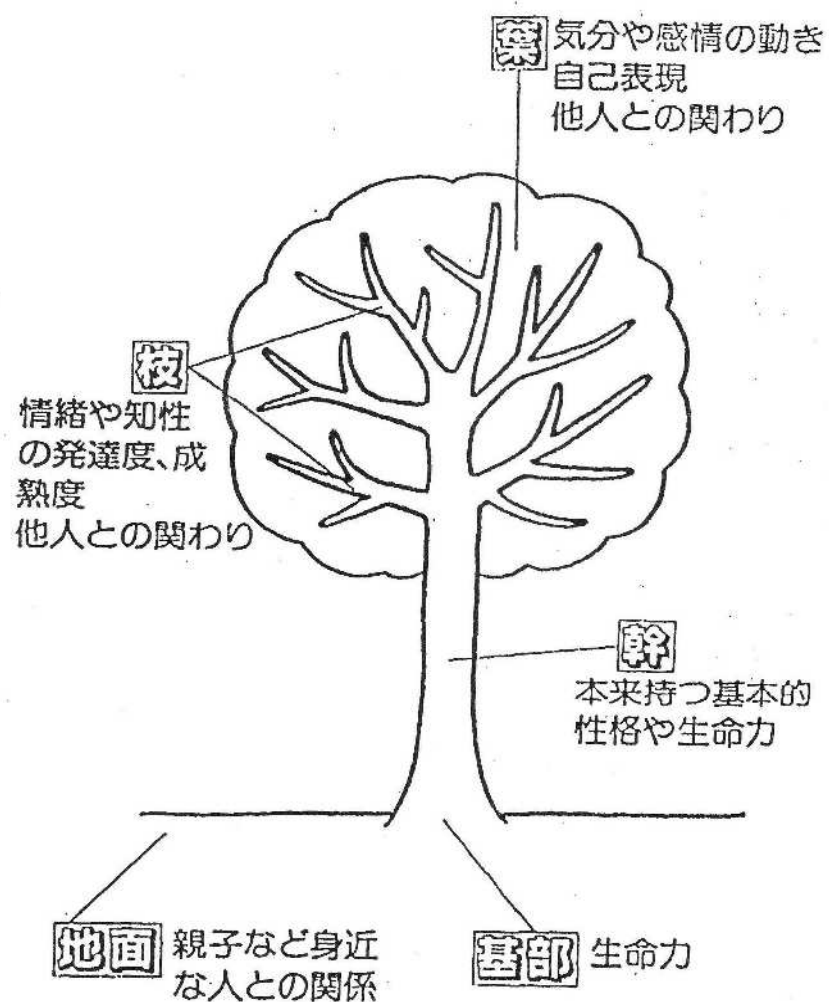
支援を要する生徒の認知特性の理解



角度(動き)を検出する認知に固有の困難 (千住, 2007)

TD	正立像でのみ、自分に向く視線を検出
ASD	正面像でのみ、自分に向く視線を検出







特別な保育・教育ニーズの理解

自己調節は広義のキャリア支援

やっている
姿を感謝で見守って
信頼せねば
人は実らず

リスペクト

話し合い
耳を傾け
承認し
任せてやらねば
人は育たず

カウンセリング

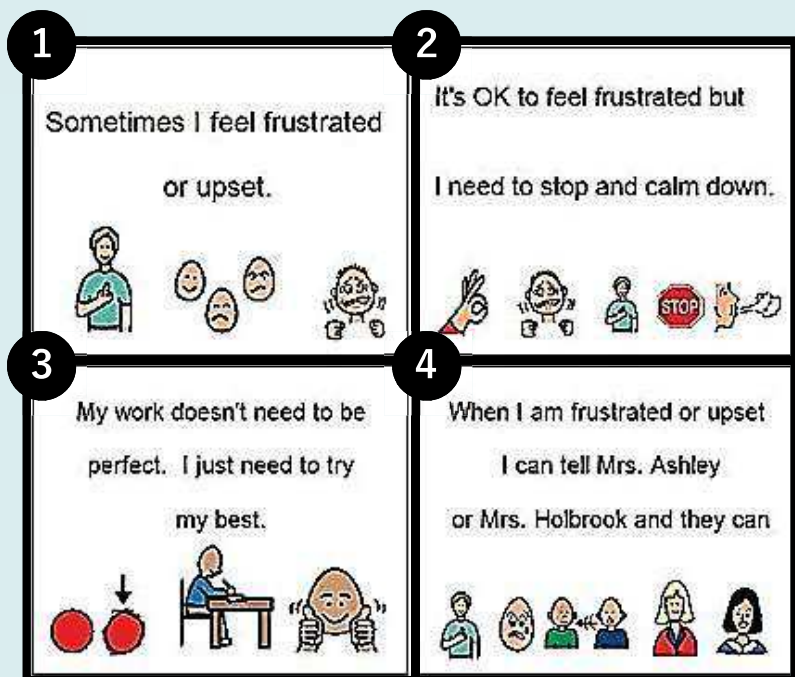
やってみせ
言って聞かせて
させてみせ
ほめてやらねば
人は動かじ

コーチング

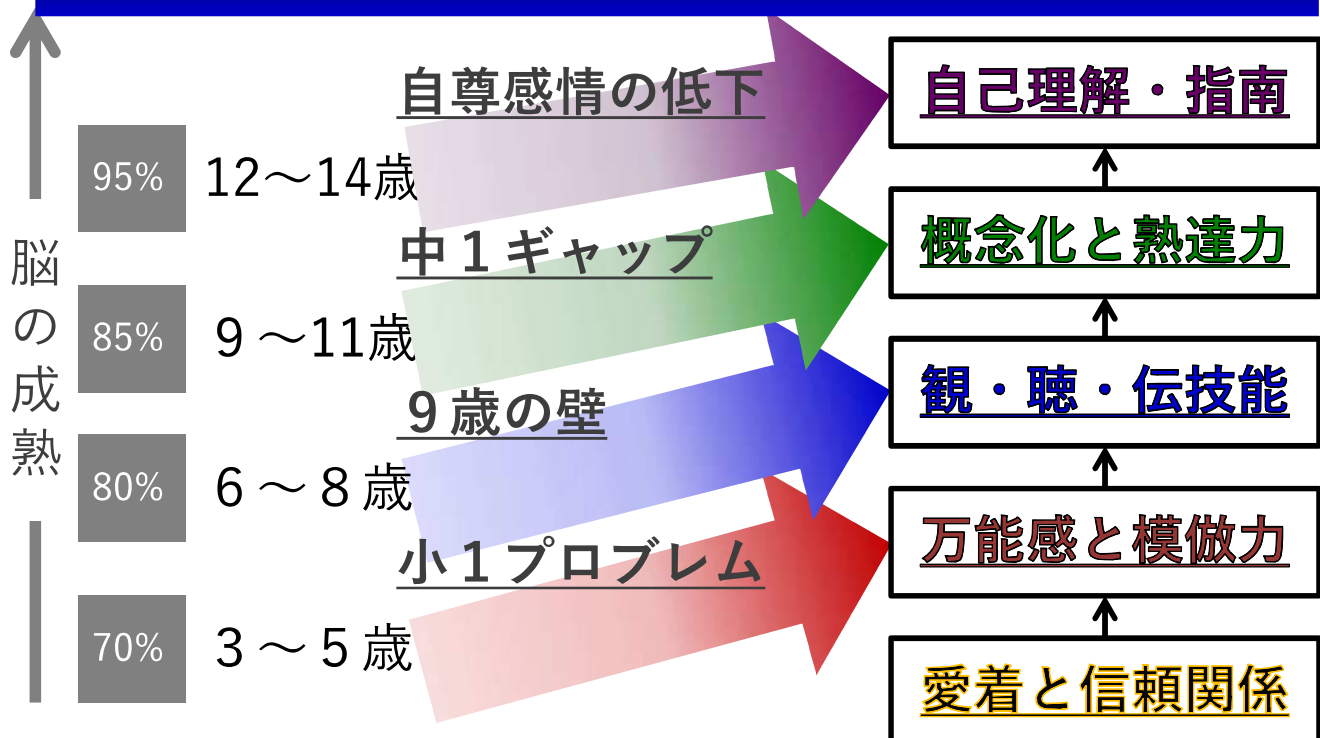
言語化を促し、自己調節を助ける



C. Grey 女史



発達支援のポイントを考える





ここがポイント

実践の意味づけと保育者の語る力量について



立教大学現代心理学部 教授／大石 幸二

課題解決のための「語り」

私は、自分自身の専門実務の中で、保育・幼児教育が展開される現場を巡回相談という形で見ていただくことが数多くあります。巡回相談というからには、先生方が何らかの課題解決を目指して、私のような巡回相談員（心理職）を現場に招いて下さるわけです。その際に、事前に問題整理（＝優先順位の高い課題の洗い出し）がなされている現場とそうでない現場とに出会います。解決したい課題は、質の高い保育・幼児教育を目指す以上、後から後から泉のように湧いてくると思います。しかし、有限のリソースの中で対応できることには限りがあります。また、実践できることにも限りがあります。例えば、無理なく実践できることもあれば、わずかな努力で実践できること、実践のためには相当な努力を要すること、一時的に実践できたとしてもその実践を持続することはきっと不可能なことまで大変な幅広さがあります。よって、何を、どういう順で、どこまで追求するかということとを絞り込む必要があります。

問題整理ができていない現場では、園内で（その立場を超えて）語り合う雰囲気があります。そして、観察事実をもとにして深い考察が、保育者ならではの、実践の言葉でなされています。また、問題整理が不十分だと感じる現場でも、私のほうからお尋ねすると、しっかりと自分の言葉で説明なさる先生方が数多くいらっしゃいます。「言語化」する力（＝語る力量）があるということです。目標が何で、その目標を実現するためにどのような場面設定を行い、声掛けや示範をどのように工夫して、個別支援をいかに実施しながら、子ども同士の育ちあい、学びあいの場づくりを行われたのか、が説明されます。その延長線上や、グラデーションの中に、さり気ない普段着の支援（＝カジュアルなサポート）を行う余地が生まれるのです。ですから、保育者の「言語化」する力はとても大切なのです。

「実践の意味づけ」への歩み

保育者の「言語化」する力をさらに一歩高めると、「実践の意味づけ」が可能になります。しかし、「実践の意味づけ」となると、たちまち難易度が上がってしまうかもしれません。子どもたちの育ちや発達をめぐる知見は、日進月歩の勢いで増加し蓄えられていきますし、すべてを網羅的に理解して、自分のものにすることはたやすい

ことではありません。その一方で、子どもの感覚と運動、認知と言語、情緒と社会などの機能については、それらの取捨選択を超えて共通に検討される内容であるだろうと思います。以下では、このことについて、簡単にご説明しましょう。

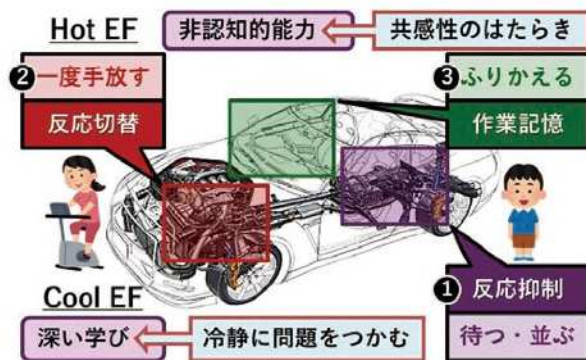


図1 実行機能の基本的な要素を検討するための模式図

子どもたちが行動を切り替えて、次の活動に移るための準備を整え、円滑に行動を進める自己調節力を獲得することは重要です。これは車の運転に似ています。図1に行動を計画的に進める実行機能（EF）と呼ばれる認知機能をごく簡単に説明しました。子どもを自分の心身という車の運転者に見立てた場合を説明しています。①は、ブレーキを上手に踏み込むこと、②は、ハンドルをさばいて目標に自分を向けること、③は、カーナビを利用して振り返りに基づいて経験を糧にすることを表しています。そして、それらの生涯生きて役に立つ認知機能を「待つ・並ぶ」ことや「一度手放す」こと、「話を聴いて振り返る」ことのなかで日々体験していることを説明しています。これらの意味がわかって、指示や手がかりを提示できる保育者と、意味がわからず形式的に実践する保育者では、子どもに与え得る肯定的影響が質的に異なってきます。日々繰り返される基本的な営みであればあるほど、その影響度は大きくなります。そのためにも、「語り」を積み重ねる努力を、これからも各園で積み重ねていただきたいです。私は、このような地に足のついた実践が、今後も保育・幼児教育の現場で大切にされていくことを願っています。

講演会アンケート結果

一般参加者 86 名
アンケート協力 79 名

資料 2 - 3

1 所属を教えてください

保育園	18
幼稚園	3
小・中学校	9
放課後児童クラブ	14
障害児サービス事業所	11
相談支援事業所	8
その他	16

(単位：人)

2 講演内容は参考になりましたか。また、ご意見がありましたらお書きください。

とても参考になった	72
少し参考になった	5
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0
無記入	2

(単位：人)

《ご意見 抜粋》

- ・睡眠の大切さを学び、睡眠のリズムは子どもの成長に大きく関わっていることを知ることができました。
- ・保育の現場で起こっているお話が聞けて良かった。
- ・現場の話、学術面から見た話、異なる視点での話を聞くことができて大変勉強になりました。
- ・子どもへの対応。放課後の保育では注意することに力を入れがちだが喜び、褒めの言葉を伝える大事さ。無意識に伝えていける様、保育していこうと思う。
- ・全体を通して一般的に「こうあるべき」という考えから個にとっての最善を尽くすことを第一に考えることが大切であることを知れました。
- ・生活の基本を整えることの大切さ、小さな目標設定の大切さを学びました。
また、そのたびに人を見るアセスメントが大切になると感じました。
- ・具体的な例をあげての説明でとても分かりやすかった。

3 ご感想など、ご自由にお書きください。《抜粋》

- ・朝霞市の支援の仕組みなどをもっと知りたいです。
- ・定期的に開催してほしい。

- ・体の使い方を意識し、子どもたちの関わりの中で気づいていくところから始めていきたいと思いました。
- ・学術的な話も大切ですが、現場で行っている現状からどのように実践をしていくのか、協力していくのかの市や協議会が考えていることを知る会があるとよいと思います。
- ・大石先生の他の課題の講演も拝聴したいです。
- ・また、このような学びの機会があるとありがたいです。
- ・こういった講演会のメインが幼児であることが多いので、放課後児童クラブで対する小学生低学年について取り上げていただく機会があるとありがたいです。
- ・一般市民の方にもこういう機会があればとてもいいと思う。
- ・保育、療育に関わる支援者のスキルアップ以上に、学校の先生のスキルアップが必要と感じています。学校とも連携を深めてほしいです。
- ・子どもたちが最初に対面する社会である保育園、幼稚園が子どもたちを選ぶことなく受け入れてくれる環境が当たり前になるといいなと思いました。
- ・記憶や子どもの理解を助けること。体作りから睡眠のリズム、目標設定をお子さんと保護者の方と共有すること。大事にしていきたいと思いました。
- ・無理のない目標設定、数分単位から始めるを現場でもすぐに取り入れていきたい。
- ・とても分かりやすく今後の保育に活かせると思う。職員へいろいろ周知させていきたいと思う。